

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
固澀剂 渋腸固脱剂 2		
<p>とうかとう 桃花湯</p> <p>傷寒論</p>	<p>温中渋腸</p> <p><主治> 久痢不止、脾腎陽虚 慢性の下痢、暗色の膿血便、腹痛があり温めたり抑えると軽減する、舌質が淡、舌苔が白、脈は遅で無力あるいは微細などを呈す。</p> <p><病機> 脾腎陽虚による腸失固摂である。 湿熱による下痢が遷延して次第に脾腎の陽衰を引き起こし、脾腎陽虚のために腸を固摂できなくなって下痢が止まらない状態であり、すでに湿熱の邪は残存していない。暗色の膿血便、腹痛、喜温喜按、舌質が淡、舌苔が白、脈が遅で無力あるいは微細などは、脾腎陽虚を表わしている。</p> <p><方意> 渋腸固脱を主体にし、温補脾腎を補助とする。 温性で渋腸固脱に働く赤石脂が主薬で、温中散寒の乾姜で補佐する。養胃和中の粳米は、両薬を助けて腸胃を保護する。全体で温中渋腸、止痢の効果が得られる。</p> <p><参考> 「桃花」の名は赤石脂が桃花のような色をもつところから名づけられている。 本方（桃花湯）は温腎補虚の力が不足しているので、脾腎虚寒が明らかな場合には人参・附子などを加える必要がある。腹痛がつよいときは白芍・肉桂・桂枝などを加える。</p>	<p>赤石脂 24g・乾姜 6g・粳米 30g 水煎し服用する。</p>
<p>しゃくせきしとう 赤石脂湯</p> <p>肘后方</p>	<p>渋腸止瀉・温補脾腎</p> <p>主治は、久痢不止、脾腎陽虚 桃花湯より温腎の効能が強くなっている。</p>	<p>赤石脂 24g・乾姜 6g・附子 3g 水煎し服用する。 「桃花湯 ー粳米 +附子」に相当する。</p>